

令和8年度 第1回平田地域協議会会議録(要約)

日 時 令和8年5月28日(木)午後1時30分～午後3時30分

場 所 平田総合支所 3階 302号室

出席委員 11名

1号委員	長堀 恵理	田中井広志	佐藤 美恵
	小野寺孝延	石黒 初枝	佐藤 善仁
	丸山 清	山口 貴明	
2号委員	石黒 由香	久松 由華	阿部 和葉

欠席委員 4名

1号委員	阿部 太郎	久松 信子
2号委員	佐藤 正一	新楯 康

酒田市出席者	まちづくり推進課長	荒木 英義
	まちづくり推進課長補佐	土井 俊彦
	平田総合支所長	渋谷 寛
	平田総合支所長補佐	佐藤ひろみ
	平田総合支所長補佐	鈴木 亨

傍 聴 者 なし

議事日程

1. 開 会
2. あいさつ
3. 委員・職員自己紹介
4. 会議録署名委員の選任
5. 報告
 - (1) 令和7年度 市長への報告内容について
 - (2) 令和8年度 平田総合支所予算について
6. 協議
 - (1) 令和8年度 平田地域協議会の開催予定について
 - (2) その他
7. その他
8. 閉 会

【協議会の概要】

新たに委員となった佐藤美恵委員に委嘱状を交付し、任期の確認を行った。
令和7年度市長報告会、令和8年度平田総合支所予算について報告した。
また、今年度の地域協議会の年間計画について、今年度は4回開催とし、主な内容を地域振興に係るもの及び市長に報告する地域課題について協議することとした。
その他として、まちづくり推進課よりコミュニティ計画の策定について説明があった。

【会議録（要約）】

1. 開会

- ▶事務局より開会と欠席委員4名の報告

2. あいさつ

- ▶石黒会長あいさつ
- ▶渋谷支所長あいさつ

3. 委員・職員自己紹介

- ▶委員11名と事務局3名の自己紹介

4. 会議録署名委員の選任

- ▶会議録署名委員は、これまでどおり名簿の順番に指名することとし、石黒初枝委員を指名した。

5. 報告

- (1) 令和7年度市長への報告内容について
 - ▶資料に基づき、石黒会長より報告
- (2) 令和8年度 平田地域関連予算について
 - ▶資料に基づき鈴木支所長補佐が説明
 - 質問なし

6. 協議

- (1) 令和8年度平田地域協議会の開催予定について
 - ▶資料に基づき鈴木支所長補佐が説明

○山口 貴明委員

- ▶ 昨年でも確か9月開催があったが、農業関係者が繁忙期で欠席が多かったように思う。開催時期は考えてもらいたい。9月にやるのであれば、9月下旬か10月でどうか。

○鈴木支所長補佐

- ▶ 9月に開催するのであれば9月下旬。状況をみて決定していきたい。2回目は、7月24日でよいか。
▶ (特に異議はないため、2回目は、7月24日開催とした。)

(2) その他

○石黒会長

- ▶ 先程、事務局より令和8年度平田地域協議会の開催予定について説明あったが、第2回目のところで昨年の議題をブラッシュアップしていくか、新しい議題をプラスするのかという話があったが、第2回目をスムーズに進めるために、今日のうちに持ち越した方がいい議題は何か、新しい議題があるのか、どんな形でやった方がいいのか方向性を明確にしていきたいと思う。

○丸山委員

- ▶ 「アイアイひらた」について、もっと盛り上げたいと思っている。「アイアイひらた」については、自分らが運営しているわけではないので、どうできるわけではないが、ただ色々な提案していくことだけはできるかもしれないと思っている。2年前から花火を上から見たりだとか、ビアガーデンしてみたいと会長と一緒に話した事もあった。その辺は議論したいと思う。市内にコミ振が36あるが、横の繋がりということで、先駆けて田沢コミ振が宮野浦コミ振と事業をやった。平田の中の中山間地域ということで、今後、東陽や山谷と事業をしていきたいと思い、話を進めている。また、鳥獣害対策について、昨年も山口委員から提案があったが、避けては通れない問題だと思う。熊は、最近も庄内空港のキャンプ場にも出ているし、東根の商店街にも出ているし、天童市、仙台市にも出ている。考えていくべき問題だと思う。

○石黒会長

- ▶ 市長報告会で市長と話したときに、「アイアイひらた」について所管がそれぞれあって、使いづらい。「アイアイひらた」に対してイベントを提案しても人手が足りない、予算がないと言われる。「アイアイひらた」は、夜食堂がない状態。夜のイベントを企画したとして、夜食堂に人を派遣してもらうのはどうかとの問いに、臨機応変に対応しますとの返事があった。企画次第と思っている。小林温泉も閉まってしまっているので、残していくものは残していきたいと思っている。

○丸山委員

▶ひらた目ん玉スポーツクラブで、年1回100人ぐらい集まってジョグウォークをしているが、「アイアイひらた」の支配人は協力的で、弁当作りだとか協力してもらっている。「アイアイひらた」は、大きい座敷があって、そこで食改の方々から食事を作ってもらったりしている。大変好評である。

○石黒会長

▶市長報告会に出席した会長、副会長からの意見になるが、第2回目の議題は今決めなくてもいいが、次回まで検討していきたいと思っている。

7. その他

▶車賃の支払いの事務連絡

▶資料に基づき、まちづくり推進課長が「まちづくり推進課運営方針」及び「地域コミュニティ推進計画」について説明

○石黒会長

▶ワークショップBについて、これはAもBも同じ流れですか、Aの内容を踏まえてのBとなるのか

○まちづくり推進課長

▶テーマとしては、地域のコミュニティ組織と地域の施設となると、少し違う感じもするが、全く関連しないわけではない。

○石黒会長

▶Aで7月、8月と2回あるということか。

○まちづくり推進課長

▶そのとおり。

○石黒会長

▶7月と8月は同じメンバーか。

○まちづくり推進課長

▶同じメンバーでお願いしたい。

○石黒会長

▶日程の関係で、土曜日の午後だと勤めの方も多いと思う。

○鈴木支所長補佐

▶日程について、平田の場合、Aの7月18日はいいが、8月22日については、翌日の8月23日に平田の夏祭りを開催予定であり、夏祭りの前日にあたるため準備等があり出席できない者も多くなる。また、Bの10月17日について、翌日の10月18日に八幡・平田連携事業の八平祭りを開催予定であり、前日にあたるため準備等があり出席できない者も多くなる。

○まちづくり推進課長

- ▶どこの地区も予定があることは承知しているが、全部考慮すると日程が決められなくなる。この日程でお願いしたい。参加できる方でやるしかないと考えている。

○渋谷支所長

- ▶平田で一番大きいイベントが夏祭りと八平祭りになる。夏祭りには中学生も関わってくるので、かなり参加は難しくなってくる。

○まちづくり推進課長

- ▶了解した。再調整の余地はあるので検討したい。では、東部中学校区については、Aについて1回目を8月1日土曜日、2回目を9月5日土曜日として、こちらで会場等も含め調整する。Bについて、こちらも1回目を10月31日土曜日、2回目を12月2日土曜日として、こちらで会場等も含め調整する。

○丸山委員

- ▶地域コミュニティ推進計画について、このスケジュールと内容だと途中で頓挫するのではないか。やってもらうことは非常に嬉しく、市もようやく目を向けてくれたかと思う。パブリックコメントが終わってから3年ある。目標、目的のところ、どこを目指して何をしていくのかというところがちょっと弱いと思う。

○渋谷支所長

- ▶今までの計画を網羅して、いろんなものを網羅してやるというよりは、自分の方で困っていること、市内には36コミセンあるわけですが、取り組みの共有と資源、人が一番だと思うんですけども、人がその取り組みに取り組めるかどうかだと思う。まちづくり推進課と思いが違うかもしれないが、計画というよりは、具体的な取り組みをまとめていきましょうという形のワークショップ、意見の出し合いであればいいのかなとは思っている。

○丸山委員

- ▶作っていく中で見えてくるものとか、課題だったり、問題だったりとかその都度出てくる問題に対してどうしていくのか。

○まちづくり推進課長

- ▶計画は、5年間で立てるが、実際の取り組みについては毎年皆さんから、できるところから取り組んでもらう。毎年フォローアップ調査と書いてるが、振り返りを皆さんからしていただく。簡単な報告書は出していただく。例えばその報告書の内容に、自分の地域ではこういう取り組みをしているとか、優良事例があれば一つの資料にまとめて全市的に共有する。他の地域がそれを見ながら、こういうやり方もできるという参考になるようなものを作っていきたい。計画自体は、手引書のような感じで捉えている。コミュニティ振興会では、地域計

画や地域ビジョンを頑張って作っている地区もあるが、自治会は、話し合いの場や議論しながらの取り組みがなかなかできていない自治会があるので、将来解散などということになると何かと困る場面もあるので、今後の参考となるようなものを作りたいと思っている。

○丸山委員

▶ありがたい話だと思う。いいと思う。各コミュニティ振興会があるわけだが、各自治会の維持費用はどこからの収入か。

○まちづくり推進課長

▶基本的には会費収入で、市から人づくり・まちづくり交付金、自治会運営交付金がコミュニティ振興会に交付され、コミュニティ振興会を通して各自治会に交付される。均等割が32,000円+200円×世帯数分、これが自治会運営交付金となり、毎年交付している。

○丸山委員

▶中山間地にいると同じ自治会でも平場の自治会との生活格差を感じる。

○まちづくり推進課長

▶平田だと砂越とか飛鳥は大きい自治会になる。大きい自治会は安泰かもしれないが、市街地でも琢成学区、浜田学区などは自治会数は多いが、一つの自治会の世帯数が少ない。担い手不足で自治会長もやめるにやめられない。後釜もない。どんどん空き家が増え、自治会員数が減ってきて、自治会運営が厳しくなっているという自治会が多くなっている。解決するためには、自治会の統合ということも考えていかなければならなくなってくると思う。行政が誘導するものではなく、解決方法の一つの手段としてこの計画に掲げられてくる場合もあると思う。統合といっても簡単ではなく、神社の氏子会だとかいろいろ課題もあって、現在の自治会役員の方々も結構悩んでいると思う。それは、役員の方だけでなく、住民の皆さんで話し合う場面が必要ではないかと思っている。ワークショップ等でいろんな意見出てくるのではと考えている。今のこの状況を打破するために、どういう取り組みが考えられるのかということ、みんなで知恵を出し合って計画にまとめ上げられればと思っている。

○丸山委員

▶市街地も大変なことはわかった。市街地は、自治会が多いが、人が少なくなっている。平田も同様に少なくなっている。どの自治会も大変な状況だということは、わかった。

○山口委員

▶今後の予定として、各自治会でアンケート等を取るという予定はあるのか。

○まちづくり推進課長

▶現在、実施している。今日の内容は、昨年、自治会長会とコミュニティ振興会

連絡協議会でも説明している。

○山口委員

▶実施しているということは、各自治会長がアンケートに答えるということか。

○まちづくり推進課長

▶まだアンケート調査は始まったばかり。紙ベースで郵送していて、最寄りのコミュニティ振興会へ提出するようにお願いしている。

○山口委員

▶行政では、自治会の実態はある程度把握しているのか。

○まちづくり推進課長

▶すべて把握しているとは言えない。

○山口委員

▶例えば、各自治会の会費だとか。聞くところによると各自治会でかなり差があると聞いている。また、自治会長手当もかなり差があると聞いていて、十数万円のところもあれば、市街地だと数千円というところもあると聞いている。差がありすぎるように思う。

○まちづくり推進課長

▶そうなると一緒に話はできないと思う。なので、今回地域毎や地区毎に分けて、進めたいと思っている。

○山口委員

▶最終的に、何を目標しているのかわからない部分もある。

○まちづくり推進課長

▶共通して言えるのは、世帯数が少ないところは会費は高い。自治会を運営する予算を世帯数で割り返せば、当然、自治会費はそうになってしまう。

○山口委員

▶平田の場合だと、平田町時代に特別職として報酬を支給していた時代があって、その時の金額に引きずられている部分がある。

○まちづくり推進課長

▶今の部分も実は大きな課題で、それを解決していくためにはどうしたらいいかというところも話として出てくるかも知れない。やはり、話し合いをしていかないといつまで経っても変わらない。何かアクションを起こさないと変わらないと思う。

○丸山委員

▶平田に各自治会があるわけだが、今のままでいいと思っているからそのままやっているのか。これについて、コミュニティ振興会で話し合いをすることはあるのか。

○小野寺委員

- ▶南平田コミュニティ振興会には、自治会は2つしかない。2つの自治会もそれぞれ課題はあるだろうし、話し合いとなれば自治会長会とかで話し合っていると思う。「コミュニティ振興会での話し合いと言われると、はっきり言わせてもらえば、私としては仕方なくやっている。この役職が大事なので頑張ろうかという気持ちは、今はほとんどない。私も仕事を持っているし、役職の決め方も弱い人とかノーと言えない人にさせている。こういう話し合いの場も私は嫌いではない。以前、私が地域協議会のような会議に出席した時に酒田市から風力発電の説明があった。5年計画だと思ったが、今はどうなっているのか。私からすれば、上の方からやれと言われて仕方なくやっているイメージしかなかった。厳しい言い方させてもらえば、行政の方は仕方なくやっているように見える。仕事のためにただやっているとしか思えなかった。そういう方ばかりではないのは理解しているが、今回の件についても日程を詰め込みすぎなのではと思ってしまう。仕方ないことだとは思いますが。

○まちづくり推進課長

- ▶いろいろなご意見ありがたい。

○丸山委員

- ▶実際には、コミュニティ振興会で自治会の維持、管理、運営について話し合いをすることはないということか。

○小野寺委員

- ▶ない。計画、決算報告をして、その中で活性化するためにはどうしたらいいか、どうしたら住民の皆さんが参加してくれるのかということを話し合うことはある。

○丸山委員

- ▶田沢コミュニティ振興会ではどうか

○長堀委員

- ▶自治会運営についての話し合いはないが、子供が少ないので、子供会の活動ができないという意見が自治会長からあった。子供会に自治会から助成金が入るけども、コロナなどもあり使い道がないという意見があった。それで、子供会活動を田沢地区一つにまとめるという話し合いになって、3年前に子供会が一つにまとめられた。

○まちづくり推進課長

- ▶今の子供会について、一つの課題があったわけで、自治会長で1回相談してみようとなった。自治会には子供会以外の役割もあるわけで、それぞれ何か課題が出たときに、自治会の役員たちだけで物事決められてなくて、自治会の住民の人たちみんな意見にくみ取って相談していくということは必要だと思う。

○山口委員

- ▶先程のまちづくり推進課の運営方針の中で、コミュニティアプリの導入とあり、26自治会参加とあるが、きちんと運用していけるのか。私の自治会では、役員の中でLINEグループを作ったが、なかなか浸透していない。個人間のギャップもあり、大変だと感じている。

○まちづくり推進課長

- ▶今は過渡期だと思うので、無理してやらなくていいと思う。やれるところからまずやってもらっていいと思う。デジタル化といっても最初は、結構労力がかかる。慣れるまで。それよりだったら、システム自体が浸透してきたり、改良されて使いやすくなってから導入してもいいと思う。

○渋谷支所長

- ▶酒田市には、大体450の自治会があり、コミュニティアプリを導入したいという相談がここ2〜3年増えた。アプリは、高いものから安いものまで様々なものがあるが、今回のアプリは宮城県で導入したアプリを、山形県でも導入するという事になったため、市でも導入の支援をしている。アプリ自体は、県民が使えるように県が導入を決めた。相当安く導入できる。今まで金額で悩んでいた自治会の内26自治会が導入するので、その使い方をみていただいて、導入を検討してもらえればいいと思う。コストパフォーマンス的にはよいと思っている。

○山口委員

- ▶自治会長にはもれなく導入するということか。

○まちづくり推進課長

- ▶導入についての説明会は、追って案内するが、市とコミ振と自治会長にはもれなく導入する。それとは別に、自治会だけのグループも追加で設定できるが、有料になる。

○渋谷支所長

- ▶必ずしも自治会長が管理する必要はなく、自治会の中で誰かが管理者であればいい。当然全員アプリを使いこなせるわけではないので、当面紙と併用になるが、広報の仕分けも大変だと聞いているので、それだけでも相当メリットある。

○小野寺委員

- ▶コミュニティアプリについて、もう一度説明をお願いします。

○まちづくり推進課長

- ▶市の予算でやるのが、市とコミュニティ振興会と自治会長、ここの連絡手段をこのコミュニティアプリでデジタル化をする。例えば、熊の出没関係も直接、市から各自治会長へアプリで連絡ができる。また、コミュニティ振興会でエリア住民が登録すると、コミュニティ振興会の中で今まで紙でやっていた回覧板

をデジタルで一斉配信できる。紙の回覧板の資料があったら、自治会長が画像で取り込んだりする必要があるが、逆に紙のチラシそのものがなくデータだけあるものは、各自治会長さんが自治会内のグループで電子回覧板で配信することができる。

○小野寺委員

▶自分の自治会でも10年ぐらい前にタブレットを導入しようとなったことがあった。ところが当然お金もかかるし、誰がやるのかというのを抜きにしても、誰が使えるのかという話になった。でも、これ話だけ聞けば、このアプリ使わなくてもできる。今あるものでやって、職員が忙しければ、市内で協力できる方を募集してやってもよかったのかなと思った。

○渋谷支所長

▶なので、手挙げ方式にした。アプリを導入したいという自治会は一定数ある。

○小野寺委員

▶アプリじゃなくても、誰かがそういう仕組みを作ればいいだけではないか。

○渋谷支所長

▶そういう仕組みがいいという自治会があれば導入の必要はない。

○小野寺委員

▶地元の人と職員で検討して作ったものとアプリと2つあっても無駄にお金かかるのではないか。安く済ませたいということであれば、酒田の企業に声をかけて作ってもらってよかったのではないか。話を聞く限りでは、LINE機能と同じとしか感じない。

○まちづくり推進課長

▶アプリでは、出欠確認機能、アンケート調査、イベント候補日の調整などできる。

○小野寺委員

▶そういうのは、作れる人はいると思う。LINEでもアンケート集計できるようなので。コストパフォーマンスの面で気になって言っている。

○まちづくり推進課長

▶選択肢は色々あるので、それぞれ自分たちでいいものを選んでいただいて、無理強いするものでもない。

○小野寺委員

▶アプリを使わなくていいというのは分かるが、それにお金をかけていいのか。

○まちづくり推進課長

▶自治会の方でも費用負担はあるので、希望されなければ費用負担はなくなる。

○佐藤美恵委員

▶アプリは、1世帯に1つか

○まちづくり推進課長

▶1人1アプリになる。例えば、4人家族で4人登録すれば、一斉に4人に配信される。

○佐藤美恵委員

▶そういう情報は、若い人まで周知されないと思う。

○まちづくり推進課長

▶そこは自治会でどこまで周知を図るのか、どこまで登録を促すかにかかってくる。ある自治会長からは、自治会内に足の不自由な方がいると回覧板がなかなか回らない。そういうことからするとデジタルになるとありがたいという話もあった。

○渋谷支所長

▶「地域コミュニティ推進計画」のBの方で学生を参加させたいという話があったが、中学生が自転車で行くことを考えると東部中学校に近い会場の方がいいのではないかと。必ず親が送迎できるわけではないので。

○まちづくり推進課長

▶そういうことまで考えると中々会場を決められなくなる。今後検討はしたい。

○小野寺委員

▶まちづくり推進課の運営方針の中の(1)③の空き家対策について、どういう対策をしていくのか。

○まちづくり推進課長

▶空き家対策というのは、所有者等個人の財産なのでなかなか今まで行政で踏み込んでいけない部分があったが、酒田市は平成23年に条例を制定した。その後、国が空家特別措置法を制定している。基本は国の特措法に基づいて、適正な管理がされていないようなものがあれば、行政が現場確認の上、助言、指導をしている。今まではなかなか指導以上のことができなかったが、今年度から指導以上の勧告、命令という措置をやる体制を庁内で整えた。今後はより厳しい対応を取っていきます。勧告まで措置されると翌年の固定資産税の住宅用地特例が除外され、固定資産税が増額になるというようなペナルティが発動される厳しい措置を今年度から実施していく。それ以外にも空家の利活用についても大事で、空き家ネットワーク協議会やこ家プロジェクトというNPO法人との取り組みで、利活用の方も今後力を入れていきたいと思っている。

○小野寺委員

▶実は、私も該当する可能性がある。親族が空き家の手続きなど色々してくれればいいが、そういかない場合もあり、色々なことを相談したい場合どこにすればいいのか。

○渋谷支所長

- ▶先程まちづくり推進課長が言った空き家ネットワーク協議会が年3回無料相談会を実施している。それについては、固定資産税納税通知書の中に空き家の困り事相談ということで通知が入っている。メインは不動産業者や建設業協会だが、司法書士、行政書士なども相談を行っているので、活用できると思う。

○小野寺委員

- ▶従来だと空き家になってから、親族でどうするかということになっていたが、できれば本人が活着ているうちに色々決めるのがいいのかなと思う。

○渋谷支所長

- ▶空き家と言えば聞こえはよくないが、使わなくなる不動産だと思ってもらった方がいいと思う。価値がある状態だと選択肢が多くなるので、価値がある状態のときにどんどん相談してもらおうと、空き家にはならないのでないかと思う。

○山口委員

- ▶山元に集落支援員が配置されているが、担当はまちづくり推進課か。

○まちづくり推進課長

- ▶組織が変わって今年度は地域みらい創生課。まちづくり推進課もひとまち交付金で集落支援員加算を交付しているので、まったく関係ないわけではない。

○山口委員

- ▶確認だが、今度、舞妓さんが地域おこし協力隊になると聞いた。昔は、各コミ振にしか配置できないと言われた。今はそうことはなくなったのか。

○まちづくり推進課長

- ▶今はそういうことはない。

○山口委員

- ▶自分が現職の頃に平田地域全体的に活動する人がほしいと要望したことがあるが、実現しなかった。今、時代が変わったのであれば、地域づくりについて一緒に活動してもらえろような人材作りをしてもらえればと思っている。

○まちづくり推進課長

- ▶地域みらい創生課に目標があつて、まだ目標に届いていない。地域課題とか地域おこし協力隊を呼びたいというニーズがあれば、担当課でいくらかでも相談できるということなので、相談をお勧めする。

○丸山委員

- ▶今の意見すごくいいことだと思う。各コミ振で協力隊を呼んで、住居を確保するなど準備するとなると大変だと思う。地域協議会だとか町として応援してもらえればやりやすくなると思う。

○まちづくり推進課長

- ▶例えば、猟友会も人材不足で、女性が狩猟免許を取るという動きがあるので、

そういう一環の中で地域おこし協力隊となり、狩猟免許を取るところからみんなサポートするとうこともできるかもしれない。

○山口委員

▶集落支援員は、国の補助金で配置できるはずなので、そういう仕組みをもう少しPRしてもいいのではないかと思う。

○佐藤美恵委員

▶郡鏡・山谷コミセンでは、このままだと衰退していくということで、地域おこし協力隊を呼ぼうということで動き出した。市の担当者と支所の担当が話を聞いてくれたが、あまりにも内容が漠然としているので、もう少し詰めないといけないという話をされた。だが、こちらとしても精一杯考えたものを出したし、あとどうすればいいんだろうと思っているうちに日にちが過ぎていった。その間、市の担当者と支所の担当からどう考えているのかという投げかけはなかった。また、こちらから話しかけても、こちらの方で考えてみますと言ってくれるが、何も進まなかった。何をしてもらいたいのかということは投げかけたのだが。先程、まちづくり推進課長が、バックアップしますとかサポートしますと言っていたが、どこまでバックアップしてもらえるのか。

○まちづくり推進課長

▶ミッションといったものがないと、ただ呼んだだけでは何すればいいかわからなくて、協力隊の方も困ってしまうと思う。ミッションを明確にして、できそうなミッションに応募してくるものだと思う。

○佐藤美恵委員

▶そのミッションは、こちらで用意しなければならないのか

○まちづくり推進課長

▶そうなる。

○佐藤美恵委員

▶今年度、活性化したいと思っている自治会長から農業者の方たちも増えてきて、その中で若い人たちもどんどん増えてきているので、意見交換、困りごとを共有する場所を提供しようということを2年ぐらいやった。今年は、それを平田地域全体でやろうと考えている。また、若い人たちが根付かない、独身の方が多いということで、結びつけてあげられるようなことをしようということを考えている。これについては、平田コミュニティ振興会連絡協議会で、予算化していただいたので、支所の方と一緒に考えてくれる人がいるとやりやすくなると思う。コミ振だけでやると事務員の仕事量が圧迫されていて、協力体制がなかなか難しいような状況にある。

○渋谷支所長

▶地域おこし協力隊は、酒田市に市外から来る方。そして、こちらの思いを伝え

るのも大事だが、思いが合致していないといけない。集落支援員は、地元の人が対象。国の補助金で雇えるようになるが、活動する者に対して国から人件費が充当されるという形になるので、人件費分の活動量が必要となる。そこを相談しながらやりましょうということだと思う。支所の職員でできることがあれば、相談しながらしていければと思う。

○佐藤美恵委員

▶一緒に考えてもらえるということか。

○まちづくり推進課長

▶支所もそうですが、まちづくり推進課、地域みらい創生課にも気軽に相談してもらえればと思う。

○渋谷支所長

▶世話役課長もいるので、そちらに相談してもらってもいいと思う。

○長堀委員

▶田沢コミ振でも2年前から地域おこし協力隊の募集をしているが、募集がない状態。募集してから2年目に内容が多すぎるということで、内容を変えて再度募集したが、その後どうなっているのか何も音沙汰がない。募集するまでサポートすれば終わりで、その後のサポートは何もないのかと思っている。こちらから聞かないと動いてもらえないのか。全く状況がわからなくて2年間何にも音沙汰ない状態になっている。募集の経過は教えてもらいたい。

○まちづくり推進課長

▶この件については、まちづくり推進課から担当課に伝える。

▶資料に基づき、5月17日開催の「里山あちゃこちゃ」について、長堀委員より説明

8. 閉 会

▶丸山清副会長閉会